

みなさんからの陳情・意見書・要請はこうなりました(9月定例会)

	件名	提出者	採択方法及び附託委員会	結果
陳情第930号	全国霊感商法対策弁護士連絡会の不当な声明に対する陳情	基本的人権・信教の自由を守る沖縄県民の会 代表 小湊一郎 金城幸弘	配布	
陳情第931号	有事法制に基づき早急に全国に地下シェルター建設を求める意見書	やんばる・村民絆の会 代表 仲宗根繁	配布	
陳情第932号	地元産品奨励及び地元企業優先使用について(要請)	西原町商工会 会長 下地浩之 西原町観光まちづくり協会 会長 近藤哲司	本会議即決	採 択
陳情第933号	県産品の優先使用について(要請)	公益社団法人沖縄県工業連合会 会長 古波津昇	本会議即決	採 択
陳情第934号	健康保険証の存続を求める陳情	沖縄県保険医協会 会長 高嶺朝広	配付	

9月定例会 賛否の分かれた議案等

議案 第39号 西原町リサイクルヤードの設置及び管理に関する条例の原案及び修正動議

本議案には新田宗信議員より修正動議がありました。
議案第39号・西原町リサイクルヤードの設置及び管理に関する条例に対する修正案。
第1条の見出しを(設置)から(設置及び目的)に改める。
第8条の見出しを(搬出元の制限)から(搬入元の制限及び搬入者)へ、条文を「搬入可能な資源ごみの搬出元は、町内の住宅及び公共施設とする。」から「搬入可能な資源ごみの搬入元は町内の住宅、事業所及び公共施設とし、搬入者においては許可業者及び委託業者に限る。ただし、町長が認める場合は、その限りでない。」に改める。

修正動議について

※賛成・反対討論はありませんでした。

	大城 誠一	真栄城 哲	与儀 清	大田 實	山城 勝貴	儀間駿太郎	伊集 悟	長濱ひろみ	伊計 裕子	喜納 昌盛	新田 宗信	與那嶺良樹	新川 喜男	宮里 洋史	屋比久 満	大城 好弘	仲松 勤	前里 光信	大城 純孝
修正動議	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	○	×	議長

※賛成は○ 反対は× 退席は退

原案について

※賛成・反対討論はありませんでした。

	大城 誠一	真栄城 哲	与儀 清	大田 實	山城 勝貴	儀間駿太郎	伊集 悟	長濱ひろみ	伊計 裕子	喜納 昌盛	新田 宗信	與那嶺良樹	新川 喜男	宮里 洋史	屋比久 満	大城 好弘	仲松 勤	前里 光信	大城 純孝
原案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	議長

※賛成は○ 反対は× 退席は退

西原町リサイクルヤード落成式

ごみの減量化・資源化を推進するため、小那覇地内に建設を進めてきた西原町リサイクルヤードが、令和5年10月4日(水)に落成式を迎えました。
西原町リサイクルセンターは、各家庭や事業所、公共施設より収集した資源ごみを分別・保管し、リサイクル業者へ搬出する拠点として、循環型社会形成に寄与してまいります。



意見書 第4号 現行の健康保険証の存続を求める意見書

反対討論の主旨

(儀間駿太郎議員)

現行の健康保険証とマイナンバーカードを一体化することを国が推進していく中で、まだ課題があることは事実で、現在ミスやトラブルがあることも承知している。ただ、その多くは制度そのもののミス以上に人的なミスである。少子高齢化や人口減など社会情勢が大きく変わっていく中で、様々な改革をしていかなければならず、その過程の中で今起きているミスやトラブルは、国も丁寧に対応していなければならないことだと思う。

しかし、行政のデジタル化は今後の日本として避けては通れないことであり、その一つがこのマイナンバーカードの活用である。一体化することにより、現行の保険証での課題となっている就職や引越、転職等による保険証の切替え、発行のタイミングや事務手続がスムーズになることや限度額適用認定証の申請が必要なくなるなど、住民サービスの向上と事務手続を簡素化することができる。

特に医療分野では医療情報等を確認することができ、医師等が一人一人の健康状況によって適切な診察と重複する投薬を回避することにより、よりよい医療を受けることができる。意見書では医療情報の漏えい等の危険性があるとあるが、その情報については本人の同意が必要となっている。また、社会保険制度を維持するために現行の健康保険証の存続を求めているが、一体化することで今後も誰もが必要ときに必要な医療を受けられることは変わらないと考える。

現行の保険証は廃止の方向だが、希望しない方には資格確認証を交付することとなっているため、現行の保険証や制度に固執せず、変化していく社会に合わせて制度を変えていかなければならないと私は考える。住民サービスの向上と行政改革のためにも、マイナンバーカードと健康保険証の一体化は必要な事業である。よって、この意見書には反対である。

賛成討論の主旨

(大城誠一議員)

この保険証を廃止してマイナンバーカードと保険証を一体化したマイナ保険証を国民に押しつけようとしている。しかし、皆さんも御存じのとおり西原町ではマイナンバーカード取得者は7割に満たないという現状がある。加えて、実際に障害者の方の母親から「娘は重度障害者で言葉が分かりません。置き去りにされていくようで、不安ですね」という意見も聞いている。マイナンバーカードの取得には、成年後見人の擁立が求められている。しかし、この成年後見人制度というのは経済的な負担もある。マイナンバーカードを取得できない人たちにとっては大きな問題である。実際にマイナ保険証を取得できない人々には資格確認証を発行すると言われていたが、資格確認証は期限つきと言われていた。また、資格確認証、これについては当面の間は申請しなくても発行するよとなっているが、それが果たして本当にそうなるのかの不安もある。

今までの現行の健康保険証、これには期限がない。保険料を支払えばずっと継続していく。そういったことから現行の健康保険証の存続を求める意見書に賛成する。

(喜納昌盛議員)

まずこの保険証の廃止が誰のために、何のためにやるのか。そこをはっきり押さえないと駄目だと思う。基本的には住民、国民のための健康保険証である。国はマイナンバーカード普及に必死であり、2万円の補助金があるが、これも税金である。このマイナンバーカード自体、金をばらまく制度である。いいところもあるが、欠点もある。いいところばかりで判断してはいけない。長い目で見ればデジタル化、ITはどんどん進んでいくが、どこかではやはりアナログも必要だということも言われている。特に個人情報絡みは、マイナンバーカード制であらゆる情報が一元化される。デジタル庁には今行政指導が入っている。そういうあやぶやな状況のなかで我々の情報は与えていいのかどうか。

これを管理するのは誰か。デジタル庁の職員は、これから見ると職員はその意識がない。ということは、IT企業がやることにある。結局は民間のIT企業が入る。個人情報本当に守れるか。それを守るシステムさえ、今ははっきりしていない。

併せて今の保険証、何の支障があるのか。何で確認証を発行しないといけないのか。我々は納税者である。更新は手続きしないとできない。こんな制度は百害あって一利なしである。現行の健康制度、保険証、手続等を含めこれをみんな機械にさせるというも納得できない。世の中の流れからして、そういうITを絶対視するという風潮をやはりどこかで止めないといけない。今の現行の保険証に何の支障もない。何でも完璧な制度はないが、現行のものを廃止する理由がないと考える。よって現行の健康保険証の存続を求める意見書に賛成する。

(新田宗信議員)

私は端的にマイナンバーカードを否定するつもりはない。ただ、一番気になるのは危機管理という部分から考えたときに、情報を一元化することによって、漏れるときには一気に情報を持っていかれる。もちろん失うときも一気に失う。

現行のマイナンバーカード制度とこれまでの保険証、並行して進めている中で、まずは国民にそれぞれの選択権を与える必要が当分の間、必要かと考える。国としては制度として強制的にそういう方向に持っていかもれない。しかし、国民の立場に立ったときに、ある程度その選択権も残す必要があるのではないかと考える。個人情報の保護、危機管理の観点から猶予期間も含めて考えたときに、当分の間は現行の保険証の存続は必要ではないかと考える。よって、現行の健康保険証の存続を求める意見書に賛成する。

	大城 誠一	真栄城 哲	与儀 清	大田 實	山城 勝貴	儀間駿太郎	伊集 悟	長濱ひろみ	伊計 裕子	喜納 昌盛	新田 宗信	與那嶺良樹	新川 喜男	宮里 洋史	屋比久 満	大城 好弘	仲松 勤	前里 光信	大城 純孝
意見書第4号	○	退	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	退	×	○	×	議長

※賛成は○ 反対は× 退席は退

議会活動

◆ 文教厚生常任委員会 意見交換会

令和5年10月17日、文教厚生常任委員会(伊集 悟委員長)は、文教厚生常任委員会を開催し、西原町PTA連合会及び各小中学校PTAと意見交換を行い、学校や子どもが抱えるさまざまな課題について、率直な意見や要望をいただきました。

- 主なテーマ
- 西原町PTA連合会の事業・活動報告
 - 各PTAからの要望事項
 - そのほか、学校協力費、コミュニティ・スクール、働き方改革、周年事業、教材費徴収、認定こども園移行、学校プール及び学校給食の民間委託

